

第7 令和2年度 地域学校協働活動推進 に関する研究委嘱 実践事例



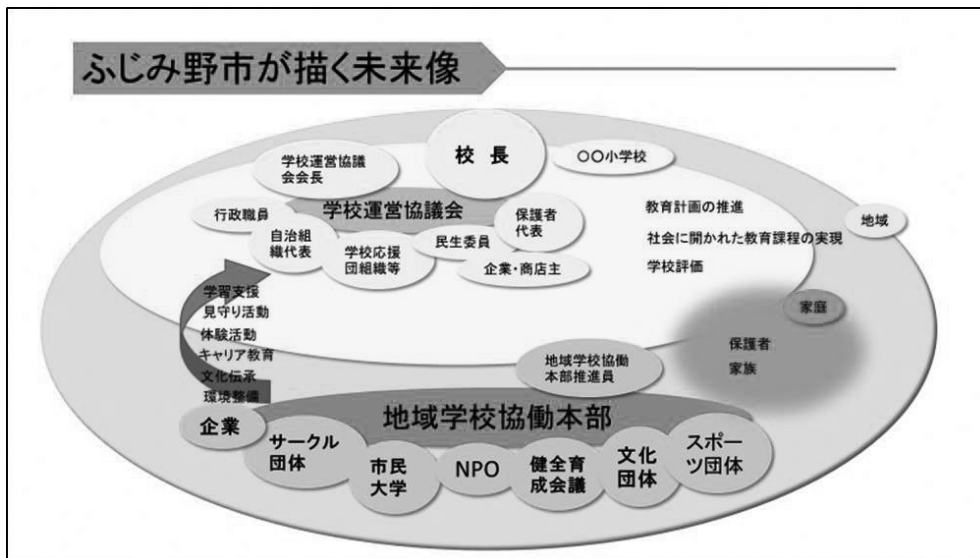
児童ボランティアと地域の方で花植
ふじみ野市立大井小学校

ふじみ野市	ふじみ野市立大井小学校
研究テーマ	地域協働学校（CS）を核とした地域学校協働活動の推進 ～基盤となる活動の工夫と組織づくり～

1 研究のねらい

ふじみ野市では、平成28年度から市長部局との協働のもとコミュニティ・スクールの検討を行い、モデル校の取組を経て令和2年度には全19校がコミュニティ・スクールとなった。今後は、地域学校協働活動の構築を通して、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を推進する。構築の方向性を試行し、推進事例を示すために本研究に取り組むものである。

2 活動の概要



(1) 経営方針への位置付け

学校の未来を創るための最重要課題として取り組んだ。

学校応援団の組織を再構築し、学校応援団活動をとおして地域人財の発掘に繋げた。

(2) 組織体制とコーディネーターとの連携

学校応援団と学校運営協議会の連携体制を構築し、活動のコーディネーターと統括コーディネーターの指名及び役割の明確化を図った。

(3) 令和2年度の課題

新型コロナウイルス感染症対応により自粛や制限がある中で、活動を工夫した上で2点の課題に取り組んだ。

- ①児童の主体性を軸に、地域、保護者と児童との関わりを活動の中心とすること。
- ②地域人財、地域企業との実務的な協働を推進すること。



コーディネーター会議での協議

3 研究内容

(1) 児童の主体性を軸に、児童の願いを実現する活動

学校行事が中止、変更を余儀なくされる中で、児童の思いや願いを地域・保護者が支え応援する活動を行うことで、地域協力者との一体的な取組の充実を図る。

①6年生計画委員（児童会）によるディスカッション

学校の現状把握と課題の明確化、課題解決の方策を検討した。

取組の具体化を図り、全校児童のボランティア参加を計画し募集した。

②学校運営協議会における児童の提案

取組に対する児童の思いや計画を説明し、協力を求めた。(計画委員によるプレゼン)
学校運営協議会委員が4つのテーマにどのように関わられるか協議した。

③委員及び発掘人財の協力

委員が情報を持ち寄ることで、地域協力者の拡充を図った。

学校応援団募集のチラシを地域に広く配布し、学校ホームページでの情報発信により地域人財の発掘に努めた。



計画委員によるディスカッション



計画委員による説明



児童ボランティアと地域の方で花植

(2) 地域企業、地域人財との協働

学校応援団は保護者が多い組織であったが、これまで学校との関わりがなかった関係者を具体的な活動を通して結びつけることにより、地域学校協働活動の基盤を構築した。

①災害発生時の協力体制の構築

学校に隣接するスーパーマーケットとの災害協力協定を締結した。

学校留め置き児童の一時的な食料確保を確実にするために、災害発生即時の物的支援の確約により、児童を保護する際の安心が得られる。

社会科見学、キャリア教育等で協力を得ていた地域企業との協働体制の深化を図った。

②地域人財によるプログラミング学習の支援

企業、大学等でのプログラミング教育、研究の関係者が学校応援団に応募し、研究者の紹介や開発教材の活用支援を推進している。

授業参観や職員研修でのワークショップにより、学校の実状を踏まえた学習の充実を図った。

4 研究の成果

- (1) 児童の思いを支えることにより、学校運営協議会委員や地域協力者の主体性のある提案や意見が見られた。活動を通して自己有用感が高まり、生涯学習のアウトプットの重要性を意識することにつながると考える。
- (2) 児童が、学校を支える地域の存在を意識し、活動を共にする喜びを体験している。このことは、自分も地域の一員であるという意識の醸成につながっていくものと考えられる。

5 課題と今後の展望

(1) 課題

地域人財の発掘、統括コーディネーター養成について、市長部局関係課との連携を図る。

(2) 今後の展望

情報発信に努め、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を両輪で推進する。

令和2年度
「地域学校協働活動」
実践事例集
埼玉県教育委員会

令和3年3月発行

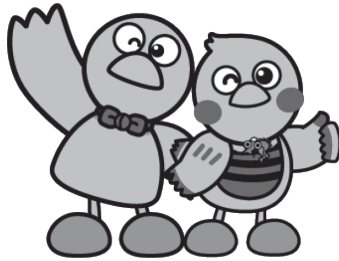
編集 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6979

FAX 048-830-4964

E-mail a6975-05@pref.saitama.lg.jp



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」